

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載
 【部門区分】第7部門第3区分
 【発行日】平成17年11月24日(2005.11.24)

【公開番号】特開2000-270041(P2000-270041A)

【公開日】平成12年9月29日(2000.9.29)

【出願番号】特願平11-66414

【国際特許分類第7版】

H 04 L 29/08

H 04 L 7/08

【F I】

H 04 L 13/00 307Z

H 04 L 7/08 Z

【手続補正書】

【提出日】平成17年10月7日(2005.10.7)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】特許請求の範囲

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】送信装置と受信装置とで通信を行う通信方法において、
第一のビット同期信号と、第一のフレーム同期信号、および通信相手を識別するための識別符号とからなるプリアンブル信号と、第二のフレーム同期信号と、データ信号とで構成される信号が送信された場合、
前記受信装置は、先に前記第一のフレーム同期信号を受信すると受信を継続し、先に前記第二のフレーム同期信号を受信すると受信を中断する通信方法において、

前記第一のフレーム同期信号(Mビット)と前記第二のフレーム同期信号(Mビット)とは先頭のNビット(N < M)がビット反転の関係である通信方法。

【請求項2】送信装置と受信装置とで通信を行う通信方法において、

第一のビット同期信号と、第一のフレーム同期信号、および通信相手を識別するための識別符号とからなるプリアンブル信号と、第二のフレーム同期信号と、データ信号とで構成される信号が送信された場合、
前記受信装置は、先に前記第一のフレーム同期信号を受信すると受信を継続し、先に前記第二のフレーム同期信号を受信すると受信を中断する受信装置において、

前記第一のフレーム同期信号(Nビット)は、前記第二のフレーム同期信号(Mビット)の先頭Nビット(N < M)のビット反転である通信方法。

【請求項3】前記受信装置は、前記第一のフレーム同期信号を検出した後、前記第二のフレーム同期信号を検出して受信信号中の受信位置を確認する請求項1または2記載の通信方法。

【請求項4】請求項1～3のいずれか1項に記載の通信方法をコンピュータで実行するプログラム。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0031

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0032

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0032】

そして、第一のフレーム同期信号（Mビット）と第二のフレーム同期信号（Mビット）とは先頭のNビット（N < M）がビット反転の関係である。第一のフレーム同期信号と第二のフレーム同期信号とは先頭のNビットがビット反転信号としたので最初のNビットの比較だけで受信信号が第一のフレーム同期であるか第二のフレーム同期であるかを直ちに判別できる。

【手続補正4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0033

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0034

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正6】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0035

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0035】

また、請求項2記載のように、前記第一のフレーム同期信号（Nビット）は、前記第二のフレーム同期信号（Mビット）の先頭Nビット（N < M）のビット反転である。第一のフレーム同期信号を短くすることでプリアンブル信号の送信時間を短くすることができる。第二のフレーム同期信号を長くすることで誤判別して受信中断する確率を減らすことができる。

【手続補正7】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0036

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正8】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0037

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正9】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0038

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正10】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0039

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0039】

また、請求項3記載のように、受信装置は、第一のフレーム同期信号を検出した後、第二のフレーム同期信号を検出して受信信号中の受信位置を確認するものである。そして、受信装置は第一のフレーム同期信号を検出した後、第二のフレーム同期信号を検出して受信信号中の受信位置を確認するので、受信すべき信号のプリアンブル信号から受信を始めた場合はより確実に受信できる。またプリアンブル信号を過ぎてデータ信号部の途中から受信を始めた場合は第二のフレーム同期信号を検出して受信中断することができる。

【手続補正11】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0040

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正12】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0041

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正13】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0042

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正14】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0043

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正15】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0150

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正16】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0151

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0151】

受信装置は受信処理不要な信号であることを示す第二のフレーム同期信号と、受信すべき信号であることを示す第一のフレーム同期信号とを待ち受け、先に検出したフレーム同期信号に基づいて受信処理を行うので、受信処理不要な信号であれば第二のフレーム同期信号を先に検出して第一のフレーム同期信号の検出をすることがない。

【手続補正17】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0153

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手續補正18】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0154

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0154】

第一のフレーム同期信号と第二のフレーム同期信号とは先頭のNビットがビット反転信号としたので最初のNビットの比較だけで受信信号が第一のフレーム同期であるか第二のフレーム同期であるかを直ちに判別できる。

【手続補正19】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0155

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正20】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0156

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正21】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0157

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0157】

第一のフレーム同期信号を短くすることでプリアンブル信号の送信時間を短くすることができる。第二のフレーム同期信号を長くすることで誤判別して受信中断する確率を減らすことができる。

【手続補正22】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0158

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正23】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0159

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正24】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0160

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0160】

受信装置は第一のフレーム同期信号を検出した後、第二のフレーム同期信号を検出して受信信号中の受信位置を確認するので、受信すべき信号のプリアンブル信号から受信を始めた場合はより確実に受信できる。またプリアンブル信号を過ぎてデータ信号部の途中から受信を始めた場合は第二のフレーム同期信号を検出して受信中断することができる。

【手續補正25】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0161

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正 2 6】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 1 6 2

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正 2 7】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 1 6 3

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正 2 8】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 1 6 4

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正 2 9】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 1 6 5

【補正方法】削除

【補正の内容】